彩の国
埼玉県



埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

埼玉県熊谷家畜保健衛生所
住所　熊谷市久保島 1373-3
電話 048-521-1274/FAX048-526-1063
（夜間･休日等は緊急携帯電話に転送）
E-mail k211274@pref.saitama.lg.jp

家畜衛生だより

令和８年 11 月発行

日本国内でランピースキン病が発生

１１月１日に福岡県みやま市、１１月５日に鹿児島県日置市、１１月６日長崎県対馬市の牛飼養農場において、「ランピースキン病」の発生が確認されました。

国内での発生は、令和６年以来２年ぶりとなります。

韓国では本年に入り本病の感染拡大が確認されており、我が国においても今後の発生および感染拡大が懸念されます。

本病は、感染牛との接触のほか、ウイルスを保有する吸血昆虫（蚊・ハエ・ダニなど）による媒介や、汚染された飼料・水・器具等を介して感染すると考えられています。

牛飼養者の皆様におかれましては、改めて飼養衛生管理基準の徹底をお願いします。

ランピースキン病発生時における防疫対策

- 発症牛の殺処分対象、
- 同居牛や周辺農場の牛の検査
- 移動制限
- ワクチン接種

福岡県における対応

- 疑似患畜１頭の殺処分を実施
- 当該農場へ隔離、移動制限を指示
- 当該農場及び半径５㎞以内の牛飼養農場にワクチン接種予定
- ワクチン接種完了後の移動制限期間は 21 日間

ランピースキン病

MAFF
農林水産省

Point

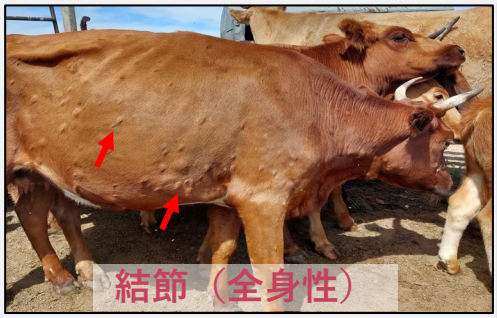
国内で、2024年11月6日に発生が確認されました

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

ランピースキン病を疑う症状

発熱、鼻汁
皮膚の結節
泌乳量の低下
リンパ節の腫大

疑わしい場合は
直ちに連絡！









写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所
（State Central Veterinary Laboratory in Mongolia）

ランピースキン病の侵入防止対策

01 毎日の健康観察

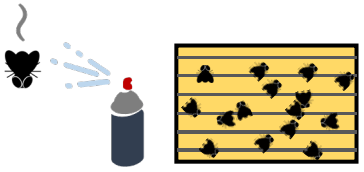
早期発見・早期連絡が重要。
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、出荷、移動時は健康観察を徹底。





02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、粘着シート等も活用。



03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。